

勝林寺寺報

「門徒ものしらす」という言葉があります。

「門徒ものしらす」ということばは、淨土真宗の門徒を嘲笑しバカにするそんな雰囲気のなかで使われることが多いようです。

「淨土真宗の奴らは何もしらんやつちゃ。世の中のしきたりも道理も知らん顔して踏みにじりよる。門徒はものしらすや。」という具合です。

これはしかし、他人がいう非難ですから勝手ですが、ただ心配なのは淨土真宗の門徒でありながら、自分の行動を弁解しようとして、この「門徒ものしらす」を使うことです。

「いやー、何もかもそんな面倒なことは抜きにさせていただきました。何しろ門徒ものしらずでつさかい勘弁してもらえて……」という具合です。

実は、これら世の中で通常使われていることばの使われたは、とんでもない誤りであることを知らねばなりません。

「門徒ものしらず」ということばは、門徒をあざ笑う言葉ではありません。まして門徒にとつて恥ずかしいことばではないのです。

むしろ、真宗門徒の生き方のすばらしさを讃めたことば。したがって誇りをもつて使われてよいことばなのです。

「門徒ものしらす」を元へかえしてもう少し詳しく言うと、「門徒ものしらす」ということです。

真宗門徒は、もの忌みといふことには全く関知しない、かかわらないのが門徒の生き方なのだということです。

日の良し悪しを気にしたり、時をえらんだり、忌み言葉などとことばの靈力を信じたり、女や血や死をけがれだと忌むなど。そのようなバカげたことには一切こだわらない。

如来のいのちをただひとつよりどころし、ほとけのお呼び声お念佛だけを根拠にして、なにものも恐れず、なにからも障えられず、ましていわんや世の迷惑俗信などに煩わされない、淨土真宗の門徒の堂々たる生き方を、まず淨土真宗の門徒である私たちが知らなければならないとおもうのです。

(勝林寺テレホン法話)



五月のことよみ

一日 平田専福寺永代經

二日 同じ・山田正直氏宅法事

三日 岸下豊氏宅法事・数森一郎氏宅法事

四日 湯口孝春氏宅法事・西山真三郎氏宅祥月

五日 横山貞三氏宅法事・西山真澄氏宅法事

六日 渡辺家結婚式

七日 神戸西幸寺永代經

八日 同じ

九日 教区企画室会議・玉田会(西方寺)

十日 教区仏婦連盟幹部研修会(神戸)

十一日 十六夜会(真覚寺)

十二日 宗祖降誕会・宮嶋一男氏宅法事・谷垣政雄氏墓参

十三日 藤田忠男氏宅法事

十四日 出石区長会研修旅行

十五日 同じ

十六日 播州蓮会

十七日 同じ

十八日 同じ

十九日 同じ

二十日 同じ

二十一日 同じ

二十二日 同じ

二十三日 同じ

二十四日 同じ

二十五日 同じ

二十六日 同じ

二十七日 同じ

二十八日 同じ

二十九日 同じ

三十日 同じ

三十一日 同じ



前号入学おめでとうに

百合の谷原 大助くん

が落ちていました。お詫びします。

あらためておめでとう

電話 079652-3083 テレホン法話 079652-5800

一生之間能莊嚴

「あなたに一生つれそって、あなたの人生を莊嚴いたしましょう」

若き日の親鸞聖人が、京都六角堂の救世觀世音菩薩から夢の告げとして受けられたことばの一節です。

「あなたに一生つれそって、あなたの人生を莊嚴いたしましょう」

そして親鸞さまは、生涯このことばをもつて妻恵信尼さまをご覧になつていたのです。恵信尼さまもまた、このことばを胸に、夫親鸞さまをみていらっしゃつたに違いありません。

そのことは、今に残る恵信尼さまのお手紙のなかにはつきりと記されています。

まず、男女の性の出会いというかたちの結婚があります。また子供を造るために結婚という考え方もあります。この場合とくに女性は、子を産む道具のように考えられ、「三年にして子なきは去る」という残酷な立場におかれました。

次に、相互扶助という結婚についての考え方がありました。ベターハーフ。二人半分づつが寄り合い助け合つて、組みの夫婦ができる。互に寄り掛かり助け合つてという夫婦の関係です。

ここではお互いは「つれあい」です。妻にとつて夫は主人。ことに女性は夫によりかかるねば生きて行けないたちばです。

女性は昔、三徳の道徳を強いられました。幼にして親に従い、長じては夫に従い、老いては子に従う。しかし最近では、「自立できない男」のことが問題になっています。ひとりの人間としてキッチリと生きて行けない男が増えているということです。

親鸞さまのご夫婦は、とくに晩年は京都と越後とに別々に別れてお過ごしでした。にもかかわらず、その晩年に、このことば

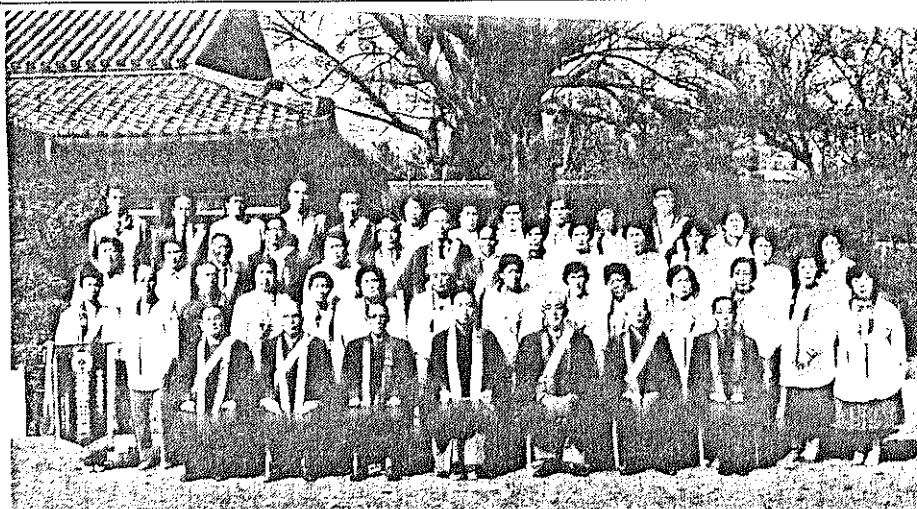
「あなたに一生連れ添つて、あなたの人生を莊嚴いたしましょう」「そしていのち終わるとき、手を取つてお浄土へともにまいりましょう」

親鸞さまは恵信尼さまを觀音さまの化身として拝されました。恵信尼さまは我が夫を、私的人生を莊嚴おこそかにかざつてくださつて、わたしをお浄土へ導いて下さる阿弥陀さまの生まれ変わりとして、いつもこちらのなかで拝みながら夫婦としての一生をすごされました。

互いに、別々の人生を歩みながら、その別々の個性の光が、互いに照らしあい莊嚴しあう、そんな夫婦・結婚というものを、この出发にあたつて、如来様のおん前で、考えてみたるものだと思うのです。

(仏前結婚式法話)

やいほどの、憎いだけだ。
やいほどの、憎いだけだ。
顔も見たく
やいほどの、憎いだけだ。
やいほどの、憎いだけだ。



第三回兵庫教区・出石組・念佛奉仕団・2号車 111.4.13

出石組

念佛奉仕団

6 遺骨を本廟へ

四月十二・十三日、例年通り出石組念佛奉仕団が京都ご本山へお参りした。参加人員百六十六名。幸い晴天に恵まれ、百華園の清掃奉仕も両堂廊下の雑きんがけも法味歎談の間におこなわれた。ご門主さまのご面接・おことばにひとしお感銘させられた。

帰途、三十三間堂の拝観を終えた後、寺ごとに大谷本廟にお参りし次の方々の納骨法要をおこなつた。

藤田秀吉様 森井花子様 永井こと様 立脇精一様 中嶋きし様 数森清様

研修旅行へ



6月3日(土)
4日(日)

会費 二万五千円

井倉洞と
湯原温泉



人生は旅。袖ふれあつて多生の因縁を慶びあいたいと感じています。
誘いあつて一人でも多くご参加ください。

おわび

勝林寺

住職
坊守

この度、坊守、突然の疾病により長期に入院いたし、大変ご心配ご迷惑をおかけいたしました。なかんずく大切な仏事仏婦の春季研修会まで中止いただきましたこと、誠にもうしづけなく、深くおわび申します。お陰様にて、おいおい快方にむかっております。皆様方のご好情のたまものと存じ衷心感謝申しております。厚く御礼申し上げます。